

企画展「終戦70年 別海と戦争」 関連事業を開催しました。

8月28日(金)は、講座「別海空襲について」と題して、昭和20年(1945)7月14日、旧標津線、重太郎川鉄橋付近でアメリカ軍機によって蒸気機関車が襲撃され、機関士が殉職したとことについて北海道教育大学釧路校授業開発研究室3年山内崇氏より報告いただきました。山内氏は当時の文書、証言等から、実際にいつ、どこで、どのように襲撃されたのかを検証し、新たな史実を述べられました。

また、翌日の8月29日(土)は、見学会「町内に残る戦争遺跡など」(在日米軍偵察爆撃機RB29プロペラブレード・計根別第一飛行場跡・旧柏野尋常小学校奉安殿・旧陸軍省根室支部軍馬補充部)をまわり、広大な大地に残された戦争の痕跡を見学しました。当日の詳しい様子は、ホームページでも紹介しておりますので、下記アドレスからご覧ください。

<http://b-school.jp/blog/kyoui/index.php?ID=663>

※企画展「終戦70年 別海と戦争」は、10月30日(金)まで期間を延長して開催しておりますので、ぜひ、ご来館下さい。(企画展のみの観覧は無料です。)



サマースクール

「むかし、むかしのべつかい 古代の装飾品 勾玉を作ろう」を開催しました。

8月3日(月)～4日(火)郷土資料館サマースクールを実施しました。「むかし・むかしのべつかい」のお話の後、古代の装飾品「勾玉づくり」に挑戦しました。滑石(かっせき)という古代から使われている比較的けずりやすい石を使い2時間ほどかけて紙やすりなどで削ります。慣れない作業で悪戦苦闘しましたが、思い思い満足した勾玉を作ることができました。



床丹 1 チャシ跡の発掘調査 その3

崩壊部分周辺の部分発掘

部分発掘調査は、チャシ跡北東側の崩落を受け、今後崩壊が進行する部分を考慮した上で、調査範囲を設定し遺構・遺物の有無を確認しました。

検出された遺構は柱穴 1 基、道跡 1 か所。出土遺物は礫 59 点、動物遺体（貝）14 点、炭化物 1 点でした。動物遺体は、ホタテガイ、ウバガイで、漁具などで突いた穴が開いていました。貝の年代測定を行ったところ 17-19 世紀の年代が与えられました。



色丹島で見た津波堆積物？

8月7日（金）～10日（月）に当館石渡主幹が「北方四島交流訪問事業」で色丹島を訪問しました。

そこで、太平洋側のイネモシリの海岸に行った時、露頭（土の層がむき出しになっている）が見えました。数年前に、根室市のガツカラ浜で見た津波堆積物と同様な層の堆積が見られたことから「もしや！」と思い観察をしました。火山灰も一枚入っていましたが、良くわからない状況でした。

この写真を長年、津波堆積物を研究している産業技術総合研究所 地質情報研究部門 地球変動史研究グループ 七山太 上級主任研究員に見ていただいたところ「礫は円盤状のものが混じっているので、斜面崩壊起源ではなく海浜礫起源と言えそうです。そうするとこれらは津波かストーム（暴風）の遡上痕跡のどちらかですが、海岸線からの遡上距離も関係してきます。特に普通の礫は移動しにくいので、暴風でも動かないし、暴浪でも海岸からそれほど動かないのです。この地域が千島海溝に面していることを考え合わせると津波痕跡の可能性が高い。」とのご意見をいただきました。

今後は、写真で道内の津波堆積物と比較していきたいと思います。



別海町郷土資料館だより No.194

発行日 平成27年9月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町 30 番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

穏やかで、涼しい季節となりました。今年一番夏を感じたのは、8月5日（水）の30℃を超えた日でした。9月は台風季節となり、災害などが起こりやすくなりますが、このまま穏やかであってほしいと思います。色丹島はとても綺麗な島でした。また、行ける機会を狙ってます。(K.I)